

〔倭名類聚抄<sup>十</sup>野菜<sup>七</sup>〕繁蕒 本草云繁蕒名八久倍良、味酸平無毒者也、陶隱居曰、即是鷄腸草也、

〔易林本節用集<sup>草</sup>波〕繁菜 繁蕒

〔書言字考節用集<sup>生</sup>六〕鷄腸菜 俗用鷄腸字 鷄腸菜 鷄腸草 蕒

〔東雅<sup>十三</sup>穀蔬〕繁蕒ハクヘラ 義詳ならず、今俗にハコベといふものは是也、ハクヘラとは繁蕒の音の

轉せしに似たり、これらの如き、韓地、方言の轉に似たり、

〔倭訓菜<sup>波</sup>中編十九〕はくべら 倭名抄に繁蕒をよめり、新撰字鏡に蕒をよめり、二名也、葉をくばり

まくの義にや、今はこべといへり、丹波にひんずり、賀州にてあさしらげといふとぞ、水はこべは

蕒菜也といへり、又筑紫にて半はこべと呼もの有、

〔本朝食鑑<sup>柔滑</sup>〕繁蕒和名八久倍良、近訓波古倍、

集解、平原曠野及庭園下濕地、自生極多、正月生苗、其葉如指頭、細莖引蔓、斷之中空、有一縷如絲、作蔬

甘脆、三月以後漸老、開細瓣白花、結小實、大如稗粒、中有小子、如葶藶子、野人多食之、此亦古來作人日

七種菜之一物、其餘瘍醫多用之、

〔重修本草綱目啓蒙<sup>柔滑</sup>十九〕繁縷 和名ハコベラ、古名ミキクサ、古歌ハコベハコベ

ラ、勢州アサシラゲ州、秋田、ヒヅリ、石州、ヘヅリ、讚州、ヒヅル、雲州、ヒンヅリ、丹波、マ

ヒヅル、備前、ヘンヅル、若州、ムシヅリ、豫州、中略

庭際路旁ニ甚多シ、四時常ニアリ、春夏尤盛ナリ、方莖地ニシキテ蔓ノ如シ、内空シテ一ツノ粗縷

アリテ強シ、葉ハ兩對ス、形橢ニシテ尖リ、長サ一寸餘、瘠地ノ者ハ至テ小ク、肥土ノ者ハ長サ二寸

ナルモアリ、ウシハコベト云、皆正二月花ヲ開ク、暖地ニテハ冬モ花アリ、又夏秋ニモ旋花ヲ開ク、

莖頭ニ多ク聚リ生ズ、大サ三分許、ソノ瓣狹細ニシテ白色、十瓣ナレドモ五瓣ノ如ク見ユ、中ニ十

葉アリ、後小房ヲ結ブ、内ニ小黑子アリ、落テ生ジ易シ、一種オホヤマハコベアリ、二名ツルハコベ、